

1 インタビュー

お客様への価値提供を第一に、 ダントツで骨太な研究開発の 成果創出を目指す

人と地球にやさしい情報社会をイノベーションで実現するという「NECグループビジョン2017」の実現に向け、3つの長期研究ビジョン（シンバイオシス、ディペンダブル、エコロジー）に基づく研究開発を推進するNEC。NECグループ発展の成長エンジンとして、イノベーションを生み出す役割を担う中央研究所の取組みについて、江村克己執行役員・中央研究所長にうかがった。



NEC
執行役員 兼 中央研究所長
工学博士 江村 克己氏

NECグループ発展のエンジンとしての役割を担う

—初めに、NEC中央研究所のミッション及び研究開発体制からお聞かせください。

江村 私ども中央研究所は、NECグループ発展のエンジンとして、将来事業を創出する革新的なイノベーションと現在の事業を大きく発展させる継続的なイノベーションを生み出すという役割を担っています。中央研究所では、NECグループの重要事業領域へ経営資源を集中するという方針のもとで、クラウドやサイバーフィジカルシステムなどのサービス基盤の研究およびIT・ネットワークシステムの研究に加え、環境エネルギー事業のコアとなるグリーンテクノロジーや10～30年後を見据えた将来の情報通信システムについての研究を行っています。また、北米（プリンストン／シリコンバレー）、欧州（独・ハイデルベルグ／英・アクトン）、中国（北京）に海外研究所を設置、グローバルな研究開発体制を整えています。

—研究開発投資の状況は・・・。

江村 NEC全体の研究開発費のうち、10%強を中央研究所に投入しています。中央研究所の研究開発のうち、半分は将来事業の創出に向けた中長期的研究に投資しています。

人と地球にやさしい情報社会の実現に向けた研究開発を推進

—研究開発の基本方針をお聞かせください。

江村 NECはグループビジョン2017において「人と地球にやさしい情報社会をイノベーションで実現

する」ことを掲げています。研究所においてもその実現に向け、3つの長期研究ビジョン（シンバイオシス、ディペンダブル、エコロジー）を設定し研究開発に取り組んでいます。シンバイオシスは、人と社会／人とIT／人と人の共生に向けた世界の知の活用を支援するような研究開発です。コンピュータの性能がいくら向上しても、我々の生活が豊かにならなければ意味がありませんし、

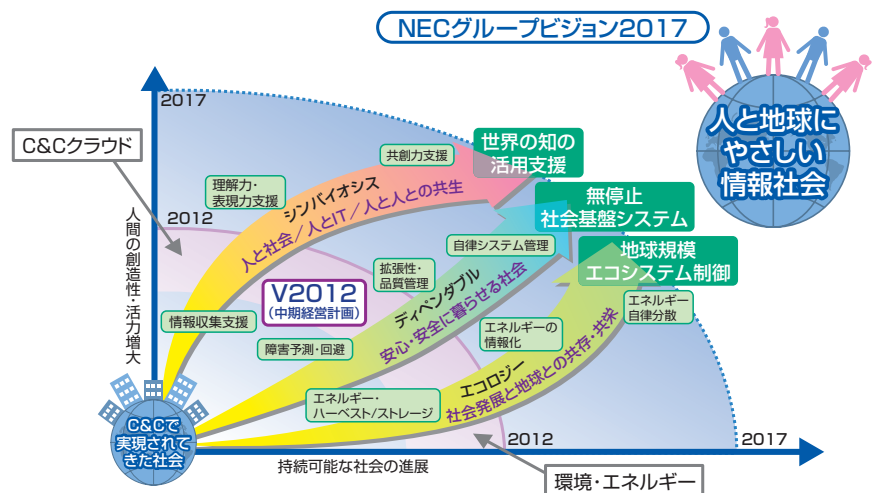


図1 研究開発の基本方針

例えばコミュニケーションに関して、単なる通訳だけでなく文化まで伝えるようなことにもチャレンジしています。ディペンダブルは、安心・安全に暮らせる社会の実現に向けた研究開発です。例えばATMや列車の運行など決して停まることのない社会基盤システムの実現や、セキュリティへの対応があげられます。3つ目のエコロジーは、社会の発展と地球との共存・共栄に向けた研究開発で、エネルギーの情報化と自律分散を実現する地球規模のエコシステム制御技術の研究開発があげられます。

顧客価値提供を第一に、世界で勝てるダントツで骨太な研究開発成果の創出を目指す

——長期研究ビジョンに基づく研究開発を推進される際の基本的な考え方をお聞かせください。

江村 お客様の求める価値につながる、事業に活きる研究開発であることがもっとも重要です。そのためには、世界で勝てるダントツな強みを持つとともに、大きな成長につながる骨太な研究開発であることが必要です。シンバイオシス、ディペンダブル、エコロジーという長期研究3ビジョンを念頭におきつつ、NEC中期経営計画V2012にダイレクトに貢献することと、将来の成長の方向性を指し示す「NECグループビジョン2017」の実現に貢献することを基軸に、以下の3つの基本的な考え方で研究開発を推進しています。

まず1つ目は、研究開発テーマの

設定方法です。テーマ設定に当たり、自らビジョンをしっかり持つこととお客様の将来ニーズや課題を把握して価値提供につなげることを重視しています。2つ目は、研究推進の方法です。グローバルにオープン化が進む時代において、世界レベルの競争に勝つために、グローバルな視点とスピード感を持った研究開発の推進に努めています。3つ目は私自身の強い想いでもあります。これら2つの結果として、ダントツで骨太な研究成果を創出することです。この3つの基本的な考えに基づき、ICTインフラを活用して、地球環境との共存・共生を図りながら、安心安全な社会を築き、高度な産業競争力の構築に貢献していきたいと思えます。

——わが国の産業競争力の強化に資するダントツ技術として、どのようなものがあげられますか。

江村 わが国の産業競争力を維持・強化するICTインフラとして、サイバー空間と実世界の融合を目指したサイバーフィジカルシステムやInternet of Things、M2Mと言われる領域が注目を集めています。情報の収集・処理・アクチュエーションの一連のサイクルを回すICTインフラにおいて、センシング技術、高度情報処理技術、アクチュエーション技術の各分野でNECならではのダントツの技術の創出に取り組むとともに全体を通したソリューションの提供に貢献していきます。またグリ

① R&D+M

顧客の明確化とHidden VoCの把握

VoC: Voice of Customer

② オープンイノベーション

事業につなげるR&Dエコシステムの構築

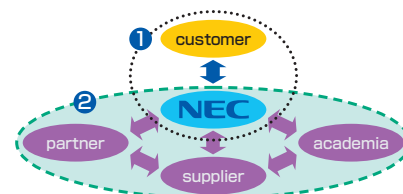


図2 R&D+Mとオープンイノベーション

ーンイノベーションへの取組みとして、エネルギーをハンドリング（蓄、創、観、送、省、管）することで、新たな価値の創造を目指しています。

「R&D+M」と「オープンイノベーション」の取組みを強化・加速

——最後に今後の抱負をお聞かせください。

江村 研究開発マネジメントとして、将来のマーケットを意識しつつお客様の声と我々の技術をいち早く結びつけ共に研究開発を推進する「R&D+M (Marketing)」活動や、R&Dのスピードと効率を向上させるための「オープンイノベーション」への取組みをより強化・加速していきたいと思っています。また、研究開発におけるグローバル活動の拡大、人材のダイバーシティ向上についても積極的な推進を考えています。研究者には、グローバルにコミュニケーションする能力を上げるとともにダントツの研究開発を行い、一人ひとりが輝く研究者になることを期待しています。

——本日は有難うございました。

(聞き手・構成：編集長 河西義人)